

基礎看護学(健康科学領域)

1 構 成 員

	平成22年3月31日現在	
教授	3人	
准教授	0人	
講師 (うち病院籍)	0人	(0人)
助教 (うち病院籍)	1人	(0人)
助手 (うち病院籍)	0人	(0人)
特任教員 (特任教授、特任准教授、特任助教を含む)	0人	
医員	0人	
研修医	0人	
特別研究員	0人	
大学院学生 (うち他講座から)	0人	(0人)
研究生	0人	
外国人客員研究員	0人	
技術職員 (教務職員を含む)	0人	
その他 (技術補佐員等)	0人	
合 計	4人	

2 教員の異動状況

渡邊 泰秀 (教授) (H14. 6. 1.～現職)

三浦 克敏 (教授) (H18. 4. 1.～現職)

永田 年 (教授) (H18. 4. 1.～現職)

山下 寛奈 (助教) (H17. 10. 1～19. 3. 31 助手 ; 19. 4. 1～現職)

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成21年度	
(1) 原著論文数 (うち邦文のもの)	4編	(0編)
そのインパクトファクターの合計	8.40	
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編	
(3) 総説数 (うち邦文のもの)	1編	(1編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数 (うち邦文のもの)	0編	(0編)
(5) 症例報告数 (うち邦文のもの)	4編	(2編)
そのインパクトファクターの合計	0.78	

(1) 原著論文 (当該教室所属の者に下線)

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Tsujimura K, Ikehara Y, Nagata T, Koide Y, Kojima N: Induction of anti-tumor responses with oligomannose-coated liposomes targeting to peritoneal macrophages. *Procedia in Vaccinology*, 1, 127-134, 2009.
2. Suzuki D, Nagata T, Eweda G, Matsumoto S, Matsumoto M, Tsujimura K, Koide Y: Characterization of murine T-cell epitopes on mycobacterial DNA-binding protein 1 (MDP1) using DNA vaccination. *Vaccine*, 28, 2020-2025, 2010, [3.62]
3. Wang L-X, Nagata T, Tsujimura K, Uchijima M, Seto S, Koide Y: Identification of HLA-DR4-restricted T-cell epitope on MPT51 protein, a major secreted protein derived from *Mycobacterium tuberculosis* using MPT51 overlapping peptides screening and DNA vaccination. *Vaccine*, 28, 2026-2031, 2010, [3.62]
4. Takayama T, Ito T, Suzuki K, Ushiyama T, Horii T, Miura K, Ozono S: BK virus nephropathy: Clinical experience in a university hospital in Japan. *Int J Urol* 16:924-928, 2009, [1.16]

インパクトファクターの小計 [8.40]

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 磯田治夫, 竹原康雄, 三浦克敏, 徳山勤: 特徴的な局所進展を示す悪性腫瘍 small round cell tumorの画像診断. *臨床画像*26: 49-59, 2010.

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 三浦克敏: 上顎洞 Ewing sarcomaの1例. *日本病理学会会誌* 98(1), 360, 2009.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Yaguchi C, Oi H, Kobayashi H, Miura K, Kanayama N: A case of intravenous leiomyomatosis with high levels of hyaluronan. *J Obstet Gynecol Res*, 36, 454-458, 2010, [0.78]
2. Takahashi M, Miura K, Suzuki D, Nagano A. Patellar impingement by synovial cord following anterior cruciate ligament reconstruction. *J Knee Surg*, 2009.
3. 安立匡志, 稲川正一, 山下修平, 磯田治夫, 那須初子, 阪原晴海, 岡村純, 三浦克敏: 上顎洞 Ewing sarcomaの1例. *Jap J Radiol* 27, Suppl. 40, 2009.

インパクトファクターの小計 [0.78]

4 特許等の出願状況

	平成21年度
特許取得数（出願中含む）	1件

1. 「新規ペプチド及びこのペプチドから成る抗結核菌ワクチン」特願2003-372782, Y2003-P294 (小出幸夫, 鈴木美奈, 青枝大貴, 永田 年; 取得年月日 2010年3月2日)

5 医学研究費取得状況

	平成21年度
(1) 文部科学省科学研究費	2件 (373万円)
(2) 厚生労働科学研究費	0件 (0万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	0件 (0万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 (0万円)
(6) 奨学寄附金その他 (民間より)	0件 (0万円)

(1) 文部科学省科学研究費

1. 科学研究費補助金 (基盤研究(C)) 「結核菌低分子量分泌タンパクT細胞エピトープの同定と抗結核ワクチンへの応用」平成21年度、143万円 (永田)
2. 科学研究費補助金 (挑戦的萌芽研究) 「超音波顕微鏡を用いた癌および沈着症の補助診断法の開発」平成21年度、230万円 (三浦)

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	0件
(3) 学会座長回数	0件	0件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	3件
(6) 一般演題発表数	3件	

(1) 国際学会等開催・参加

5) 一般発表

ポスター発表

1. Eweda G, Suzuki D, Nagata T, Tsujimura K, Koide Y: Identification of murine T-cell epitopes on low-molecular-mass secreted proteins (CFP11, CFP17, and TB18.5) of *Mycobacterium tuberculosis* with DNA immunization. DNA Vaccines 2010, New Orleans, USA, March 2-4, 2010.
2. Yamamura Y, Tsujimura K, Uchijima M, Seto S, Nagata T, Koide Y: Immunogenicity of dormancy-related antigens of *Mycobacterium tuberculosis* in DNA-vaccinated mice. DNA Vaccines 2010, New Orleans, USA, March 2-4, 2010.
3. Miura K: Oropharyngeal squamous cell carcinoma of HPV-positive and p16 overexpression show favorable prognosis. 6th Asia Pacific Congress of International Academy of Pathology, Kochi, Kerala, India, August 20-23, 2009.

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

1. 日本薬理学学会（評議員）（渡邊）
2. 日本病理学会評議員（三浦）
3. 日本臨床細胞学会静岡県支部理事（三浦）

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	0件

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

1. 渡邊，1回，Life Sciences（米国）
2. 渡邊，1回，Recent Patents on Cardiovascular Drug Discovery（米国）
3. 永田，2回，Microbiology and Immunology（日本）
4. 永田，1回，International Journal of Infectious Diseases（加国）
5. 永田，1回，Ecological Indicators（米国）
6. 永田，3回，Journal of Biomedicine and Biotechnology（米国）

9 共同研究の実施状況

	平成21年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	1件
(3) 学内共同研究	2件

1. 平成18年頃から福島県立医科大学薬理学教室，福岡大学医学部薬理学教室と共同研究をしている。“新規NCX抑制薬であるベンジルオキシフェニル誘導体（SN-6, YM-244769）の電気生理学的特徴”をテーマに、モルモット心室筋細胞を用いてパッチクランプ法にて検討をした。SN-6の電気生理学的特徴を2007年Eur J Pharmacol, Niu et al. に発表した。また今後，YM-244769の電気生理学的特徴を論文発表する予定である。（渡邊、山下）
2. 感染症学講座（生体防御部門）と“結核菌に対するT細胞応答”をテーマに共同研究をしている。結核菌の急性感染期の代表的抗原である低分子量分泌タンパク（CFP11, CFP17, TB18,5）および急性期・休眠期の代表的抗原MDP1を中心にしてマウスおよびヒトの優勢T細胞エピトープの同定をおこなっている。（永田）
3. 光量子医学研究センターで細胞イメージング分野の山本先生と超音波顕微鏡の応用について共同研究を行っている。（三浦）

10 産学共同研究

	平成21年度
産学共同研究	2件

1. 浜松フォトニクスとのデジタル顕微鏡の開発では，実際の組織標本や病理標本を用いて，教育や研究会発表への応用について問題点を探り，さらなる応用を目指している。（三浦）

2. 本多電子とは超音波顕微鏡の臨床応用について共同研究を行っている。(三浦)

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 心室筋細胞のNa/Ca交換体に対する新規ベンジルオキシフェニル誘導体の作用

Na/Ca交換体は細胞内Ca動態に関わる重要な蛋白であり、特に心臓においては心不全や虚血再灌流障害との関連が知られている。モルモット単離心室筋細胞におけるNa/Ca交換電流に対する新規Na/Ca交換体の選択的阻害薬YM-244769の作用を調べたところ、これまでに報告されているベンジルオキシフェニル誘導体と比較して、KB-R7943やSN-6よりも強力にNa/Ca交換電流を抑制し、SEA0400と同様の抑制効果を持つことが明らかとなった。また、細胞内にトリプシンを添加して電流を測定すると変化がないことから、YM-244769は細胞外もしくは細胞膜貫通領域に作用していることが示唆された。

(山下, 渡邊)

2. イド沈着部が非沈着部に比べ、音速が早くなることが、判明した。アミロイド沈着範囲の推定に有用であることが判明し、臨床応用に期待できる。

(三浦)

3. 結核菌由来感染防御抗原分子のマウスT細胞エピトープの同定

結核菌由来感染防御抗原分子のうち、急性期の主要抗原である低分子量分泌タンパク (CFP11, CFP17, TB18.5) および急性期・休眠期を通じて主要抗原であるMDP1分子のマウスT細胞エピトープを同定した。

(鈴木, Eweda, 永田, 辻村, 小出)

13 この期間中の特筆すべき業績、新技術の開発

1. 浜松フォトニクスとのデジタル顕微鏡の開発では、実際の組織標本からライブラリーを作り、教育への応用を目指している。(三浦)
2. 光量子医学研究センターの山本准教授と本多電子との共同研究で、超音波顕微鏡の臨床応用の可能性を研究している。(三浦)